



2014年7月25日

報道関係者 各位

党改革創生会議、民主党への『報告』をまとめる 野党第一党としての責任をはたす「覚悟」を迫る

民主党

民主党の「党改革創生会議」（議長 船橋洋一）は、25日、「党改革創生本部」（本部長 海江田万里）に対し、野党第一党として国民の負託に応えられる党としての「あり方」「なすべきこと」などを報告としてまとめ、海江田万里民主党代表に提出しました。

報告の主眼は、はじめに民主党の理念とアイデンティティをあらためて確認するとともに、党運営のあり方、体制の改革の方向を示し、同時に来春の統一地方選に向けた政策ビジョンとアクション・プランを打ち出すことにおかれています。

報告は全四部からなり、第一部は「理念」。国民とともに地方からボトムアップで党を再生することで、党をしっかりと支える基盤をまず作ることを優先し、党のあり方を不断に改善していく、その覚悟を全党の共通認識とすることを指摘しています。

党の立ち位置は「穏健中道の国民政党」とし、国民大多数の常識の受け皿にならなければなりませんとしています。今何よりも必要なのは憲政と民主主義を守る強力な野党の存在であり、そのためには野党分立の状況を乗り越え、便宜的な結合よりも今の自民党政権と正面から対決する姿勢を示し、その先頭に立つべきと報告しています。

第二部は「党運営」。広く国民に開かれ、多様性を重んじ活力ある政党を目指すこと。とりわけ今回重視しているのが政党ガバナンスの確立。議論を尽くし迅速に物事を決め、決めたことはきちっと守るという党運営の基本。そして民主党が新たに直ちに当たって心すべきこととして、軸足を地方に置くこと。地方に堅固な基盤を作ることから党再生に着手すべきであると。本報告は代表選挙にも踏み込み、①国会議員と地方議員の保有ポイントを同じ比率にする②代表選挙に予備選挙を導入、など思い切った党運営改革を進言しています。

第三部は、「男女共同参画政党」。女性の国会議員比率が低い現状を大きく変え、2020年には所属議員に占める女性議員比率を30%まで高め、女性の声を政治に強く反映し、民主党が訴えてきた多様性の重視を自ら実現していく政党として変わっていくことを報告しています。

第四部は「統一地方選挙とアクション・プラン」。「地方に根ざした政党に生まれ変わる」と題し、「地方組織の抜本的強化に関する検討」では、党再生には地方組織の強化・拡大が不可欠としながらも、画一的対応ではなく個々の実情に応じた組織強化策と財政支援が必要としています。次いで「統一地方選挙対策計画に対する取り組み」と具体策に関する報告が続くなか最後の「地方選対策に向けたアクション・プランの検討について」では、1、増税ウォッチ・チーム2、女性・若者・非正規労働者支援チーム3、女性候補者擁立チーム4、原発・エネルギーチームの4つを重点化し、キャンペーンの展開を進言するなど、今の政治状況に対する国民の期待に民主党が真剣に取り組んでいくことを強く要請する内容になっています。

◇本件に関するお問い合わせ先◇

党改革創生会議

事務局長 秋元 雅人

電話：03-3595-9000

E-mail:akimoto@dpj.or.jp

.....

配布資料

◆「党改革創生会議 報告書」

以上